

# Tera



## 目 次

【活動報告】平成20年度事業報告	富永 安治	1
【活動報告】平成21年度事業計画	富永 安治	3
【活動報告】平成20年度・新現役チャレンジ支援事業（Eメール事業等）の概要	粟野順二郎	5
【活動報告】Sプロ・スキーム1 企業OBのスキルのマニュアル化・資格化	三原 種豊	6
【活動報告】Sプロ・スキーム2 核となる拠点技術の概要	平井 佳紀	7
【活動報告】Sプロ・スキーム3 支援企業ニーズデータベースの構築	粟野順二郎	8
【活動報告】Sプロ・スキーム4 支援技術管理スキームの構築、マニュアル化	三原 種豊	9
【活動報告】平成20年度・新現役チャレンジ支援事業（Eメール事業等）のまとめ	粟野順二郎	10
【活動報告】わかやま ものづくり支援アドバイザー事業	佐藤・富永	11
【活動報告】わかやま 「K社」サポート活動報告	中西・村岡・宮本	12

# 「平成21年度 基本方針」

理事長 寺山 浩三

- 1 . Sプロ完遂
- 2 . 原点回帰
- 3 . 内需拡大

## 【活動報告】

# 平成20年度(第4期) 事業報告

平成 20年 1月 1日 ~ 平成 20年12月31日

昨年に続き、今年度も大阪府中小企業団体中央会のモデル組合として、近畿産業技術クラスター協同組合が選任されました。また、独立行政法人中小企業整備基盤機構推進の「新現役チャレンジ支援事業(モデル事業等)」の委託を受け、精力的に推進した。これまでの活動経過を報告します。

### 1. 概況

平成20年度の事業計画に対し、計画に見合った共同受注は得られなかったが、協同組合として、積極的に取り組んだ事業としては、

独立行政法人中小企業基盤整備機構が推進する「新現役チャレンジ支援事業(モデル事業等)」の委託を受けて、我々都市企業OBによる地方中小企業の支援事業に参画した。

再委託事業として、近畿経済産業局の「販路マッチングナビゲート事業」の推進を図り、中小ベンチャー企業の販路開拓支援に協力した。

(財)わかやま産業振興財団のものづくり支援事業の「わかやま ものづくり支援アドバイザー事業」に参画し、中小企業に対する企業コンサルティング(5S活動)を通じてM社の経営体質の改善に貢献した。

教育及び情報提供事業として、顧問懇談会及び一泊研修会を実施し、併せて来期の事業計画・予算編成を行った。



研修会での事業計画立案

### 2. 庶務事項

#### (1) 組合員数

本年度の組合員数は新規加入5名で、総員22名の体制になった。

#### (2) 一般事項

組合の発展に伴い、規定及び基準の見直しと改定を推進した。

### 3. 事業の状況

#### (ア) 共同受注事業

##### (1) 事業の概況

20年度事業計画では、開発・生産・販売等コンサルティング15件で、内コンサルティング顧問契約(月1回)で3件、コンサルティング顧問契約(月2回)で4件の受注目標であったが、計画に見合った受注は得られず、対予算30%に留まった。

近畿経済産業局が推進する「販路ナビ事業」に参画し、中小ベンチャー企業の販路開拓支援及び(財)わかやま産業振興財団が推進する「ものづくり支援アドバイザー事業」に参画し、中小企業の経営支援(5S活動他)を行った。

また、中小企業基盤整備機構の「新現役チャレンジ支援事業(モデル事業等)」の活動を通じて、我々クラスター協同組合の体制を強化し、専門技術の蓄積・深堀りを進め、セミナー開催等を推進して、共同受注へのデータベース化作成を着実に推進してきた。



「新現役チャレンジ支援事業」の会議

(2) 事業実績

年間を通じた継続受注契約は、N 製作所、T業、パソコン教室があった。

近畿経済産業局・NBK新事業「販路ナビ事業」の推進を図り、各ナビゲーターが企業への働きかけを行ったが、評価すべき実績には結びつかなかった。今後も継続支援を行なう。

(財)わかやま産業振興財団が推進する「ものづくり支援アドバイザー事業」に参画し、A工作所、IT社、T工業、Mコートの工場管理を含む経営支援に引き続き、5S活動による(株)Mの経営支援を受注した。

(イ) 共同宣伝事業

(1) 事業実績

昨年に続き今年度も大阪府中小企業団体中央会のOB人材活用推進事業の「モデル組合」として選任され指定を受け、新しい取り組みを行った。

NBK新事業の「販路ナビ事業」の推進を図り、また、中小企業基盤整備機構の「新現役チャレンジ支援事業(モデル事業等)」の活動を通じて、着実に組織強化し、社会貢献の出来るモデル事業を提案できた。

同宣伝として、OB人材募集及び支援企業募集のため、協同組合のパンフレット作成、及びホームページを充実させた。

「第26回吹田市産業フェア」「大阪大学との産産学ビジネスマッチングフェア2008 in 北大阪」に出展し、広報活動に努めた。

八尾市商工会議所で「八尾発!! シニアの力で会社を伸ばす 企業OB人材活用セミナー」を開催し、(株)長峰製作所の長峰社長の講演を頂き、粟野常務理事が講演を行い、富永専務理事が組合の紹介を行った。



八尾セミナーの講演

会誌「Tera」を継続3回発行して、協同組合の広報に努めた。

(ウ) 教育及び情報提供事業

(1) 事業実績

12月8日に一泊研修会を神戸で行い、各組合員が平成20年度の「回顧と希望」を発表した。

4. 20年度 決算	(単位：千円)
(1) 収益の部	2,159
(2) 費用の部	2,552
(3) 当期純損失金額	463
(4) 次期繰越損失金	199

今期は約46万円の赤字で、20万円の繰越損失金を出したが、来期はこれらを全てクリアし、組合員一丸となって黒字に転換する施策を立てる必要がある。

(富永安治 記)

【事業報告】

平成21年度(第5期)「事業計画」

(平成21年 1月 1日から平成21年12月31日まで)

1. 平成21年度基本方針

近畿産業技術クラスター協同組合は、積極的かつ組織的活動の推進をはかり、磐石な経営基盤の再構築を目指す。

なお、今年の重点取り組みは、医療、介護、環境、エネルギー分野とする。

(1) 新現役チャレンジ支援事業の完遂

重点分野に専門性の高い人材の確保

現有人材のスキルアップ

ニーズに絞り込んだシーズの調査

中小企業ニーズの的確、かつ効率的な手法の探索

「関西国際航空機市場参入等支援事業」への参画・支援

(2) 原点回帰

我々は、常に初心に帰り、中小企業に目線を合わせ、コンサルタント技術を軸に、顧客の拡大を図る。

100人体制の再スタート  
標準化の整備

(3) 販路拡大

今年度も研修・厚生には力を入れて、技術力のレベルアップを図り、クラスター協同組合の実力をあげ、我々のモットーである『中小企業を元気にする!』の実績を挙げる。



写真1：総会終了後 組合員の面々

社会貢献プログラムとして  
地域金融機関との連携  
吹田市役所との連携  
吹田商工会議所との連携  
を実施する。

2. 事業計画

共同受注に関する事業

(1) 共同受注

この事業は、組合員が実施するコンサルティング業務を組合員から委託を受けて、組合が企業等から受注することにより行う。

受注した案件については組合員の専門性、余剰能力等を勘案し、理事会で配分先を決定する。

(継続受注)

K 電機(日商 OB 人材)

T 工業

N 製作所

(2) 近畿経産局・NBK 関係及び日商関係  
(各協議会の OB 人材マッチング受注)

この事業は、組合員及び技術指導員が実施するコンサルティング業務を日商の各協議会から直接委託を受けた組合員及び技術指導員と組合が企業等から受注することにより行う。但し、技術指導員が直接受注した案件は、組合員の資格を有した人以外の案件は除く。

(新規開拓)

組合員からの紹介(2社)

阪大フェア(5社)

近畿経産局・NBK 他

OB人材マッチング事業



写真2：近畿経産局企画官来訪でご挨拶

3. 平成21年度収支予算(単位：千円)

(1) 収入の部	5,682.
(2) 支出の部	5,150.
(3) 利益剰余金	127.

4. 当期役員

代表理事(理事長)……………寺山 浩三  
 副理事長……………原田 和夫  
 専務理事……………富永 安治  
 常務理事……………粟野 順二郎  
 理事……………平井 佳紀  
 監事……………福島 勤  
 監事……………井澤 佑治

組合員各位の協力を得て、2月25日第4期の通常総会を終えることができた。第5期は平成21年度の基本方針に基づき、組合員の技術力のレベルアップを図り、売上目標の必達のため、組合員各位の一層のお力添えをお願いする。



写真3：平成20年度総会

また、平成21年度の「新現役チャレンジ支援事業(モデル事業等)」に公募・受託して、更なる社会的貢献を果たし、併せて、我々近畿産業技術クラスター協同組合の経営基盤の再構築に努めたいと考えている。



写真4：神戸での研修会

(富永 安治 記)

## 【活動報告】

### 平成20年度 新現役チャレンジ支援事業（モデル事業等）の概要

当組合は、独立行政法人中小企業基盤整備機構から『新現役チャレンジ支援事業（モデル事業等）』（通称：「S プロ」と呼称）の委託を受け、「大都市の企業 OB が、地方都市の中小企業を支援する仕組みを再構築すること」が目標で、本年3月6日締め切りまでに取組んできたことを報告します。

当組合では、従来の支援活動が必ずしも中小企業側に受け入れられていない現実を反省し、中小企業側から受け入れやすい仕組みを構築するという観点から、従来にない新たな4つのスキームを計画し事業活動を展開してきた。

その概要は、右図に示した通りで、単なる企業活動の補助ということだけではなく、この緊縮経済の時代をも生き抜く企業活動を提案するものである。

#### 委託事業のスキーム（計画）の概要説明

#### スキーム1：企業OBの支援スキルのマニュアル化・資格化

企業OBが行う支援スキルの内容は、従来曖昧であったが、本事業ではこのスキルをマニュアル化・データベース化して整理を行う。また当組合基準で資格化を行なう試みもした。

#### スキーム2：核となる拠点技術の構築

近年、大学では新技術が開発・提案されているが、企業で開発の経験があるOBがこれらの新技術を第三者の目で調査整理し、中小企業側で事業化・具体化できる形にまとめた。今回は、近畿地方の大学を中心に調査した。

#### スキーム3：企業ニーズデータベースの構築

この事業の目的は、地方都市の中小企業が何に悩み、どんな課題で苦しんでおられるかを把握すること、即ち、企業ニーズの把握である。

そこで、地方都市でセミナーを開き、中小企業に集まっていたいただき、アンケートを採り、交流会を開いて中小企業の悩み・課題を聞き



出すという段取りで準備した。まず、セミナーを開催する地方都市の選択と交渉、講演者の選定と依頼、そして、アンケートの作成等を準備した。

#### スキーム4：企業運営管理スキームの構築

スキーム1と連動し、企業を運営管理するスキルを整理し、データベースを整備した。

以上の事業活動は、平成21年3月6日に終わる7ヶ月余の短い期間の活動であったが、ほぼ予定通りの成果を得て終了することが出来た。

次ページから、各スキーム責任者による事業活動の奮闘ぶりを書いてもらっているので、注目してもらいたい。（粟野順二郎 記）

【活動報告】

Sプロ・スキーム1 企業OBのスキルのマニュアル化・資格化

企業OBのスキルは、企業OBが長い会社生活で築いた貴重な経験、財産であり、尊重されるべきである。しかしながら、一方支援を受ける中小企業側にとってはどんなことを支援してもらえるのか聞いてみるまで分からず、また支援する側の新人OBにとっても、何をどのように指導すればいいのか分からないなどの課題もあった。

本委託事業では、支援事業の近代化のためにこういったスキルのデータベース化、マニュアル化、資格化は不可欠として取り組むこととした。当初は企業OBも何をやるのと戸惑いがあったが、委託事業が終わってみれば、かなり趣旨が理解されたと感じられる。

手始めに当組合で従来、ある程度整備されていた「支援メンバーと専門分野(表1)」を充実完成することを始めた。これは各企業OBの業歴、職歴を主体にまとめたものである。

これができると、次に「支援項目の概要」を各人の支援分野ごとにその「概要、資格ランク」を整備した。また一部支援項目ごとに教材となるパワーポイント原稿を整備した。

この表1、表2を図式化したのが表3「専門分野一覧表」であり、支援人員計画などに活用する。

資格化は、自主的に「企業OBリーダー1, 2, 3級」の制度を設け、自主申告したものに、役員が評価などを参考に決定した。3級はその分野にかなり詳しいことを意味し、

1級は、支援の経験豊富で受講者の評価も良く、講師を指導できる程度の高度のレベルを意味している。2級はその中間である。

資格制度は行政も進めていることであり、支援制度の信頼向上、支援OBの自信にもつながる。

表1. 支援メンバーと専門分野

支援分野	支援メンバー	専門分野	資格取得
経営・経営者	社長経験者、役員経験者、経営者	経営戦略、経営改善、経営分析、経営企画、経営相談	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営者、経営者経験者	経営戦略、経営改善、経営分析、経営企画、経営相談	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営者、経営者経験者	経営戦略、経営改善、経営分析、経営企画、経営相談	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営者、経営者経験者	経営戦略、経営改善、経営分析、経営企画、経営相談	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営者、経営者経験者	経営戦略、経営改善、経営分析、経営企画、経営相談	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営者、経営者経験者	経営戦略、経営改善、経営分析、経営企画、経営相談	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営者、経営者経験者	経営戦略、経営改善、経営分析、経営企画、経営相談	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営者、経営者経験者	経営戦略、経営改善、経営分析、経営企画、経営相談	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営者、経営者経験者	経営戦略、経営改善、経営分析、経営企画、経営相談	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営者、経営者経験者	経営戦略、経営改善、経営分析、経営企画、経営相談	経営者リーダー1級、2級

表2. 支援項目の概要

支援分野	支援項目	概要	資格取得
経営・経営者	経営戦略	経営戦略の重要性、経営戦略の策定、経営戦略の実行	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営改善	経営改善の重要性、経営改善の策定、経営改善の実行	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営分析	経営分析の重要性、経営分析の策定、経営分析の実行	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営企画	経営企画の重要性、経営企画の策定、経営企画の実行	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営相談	経営相談の重要性、経営相談の策定、経営相談の実行	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営相談	経営相談の重要性、経営相談の策定、経営相談の実行	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営相談	経営相談の重要性、経営相談の策定、経営相談の実行	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営相談	経営相談の重要性、経営相談の策定、経営相談の実行	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営相談	経営相談の重要性、経営相談の策定、経営相談の実行	経営者リーダー1級、2級
経営・経営者	経営相談	経営相談の重要性、経営相談の策定、経営相談の実行	経営者リーダー1級、2級

表3. 支援メンバーと専門分野

(三原種豊 記)

【活動報告】

Sプロ・スキーム2 核となる拠点技術の構築

「スキーム2」では、近畿地区大学の新技術情報を収集し、中小企業で有用な情報を選出し、技術シーズの調査をおこなった。

1. 調査内容

この新技術は技術分野毎に集計し、技術マップを作成した。技術分野としては、基礎技術、ライフサイエンス、エネルギー、環境、医療など9分野に分類し、さらにそれぞれを再分類し、60項目の技術分野について調査を行った。

この新技術に対し、中小企業に有用と思われる技術に対しては、さらに詳細を調査し、新技術の概要、事業化への課題、実現性、製造に対して求められる技術、中小企業への評価、マッチングなどを調査し、新技術ごとに新技術調査票を作成した。

調査対象は最近3カ年の新技術とし、調査範囲は近畿地区20大学を調査した。

情報の入手はインターネット、学会、学会誌、文献などにより行った。

2. 調査結果

近畿地区20大学の調査結果は、

- ・新技術調査件数・・・2,591件
- ・内中小企業で有用な件数・・・770件であった。

また、この中小企業で有用な新技術770件に対して、それぞれの新技術に対してキーワードを選定し、技術分野ごとにマップ化し、各大学の技術動向が見えるようにした。

表2.2-1 中小企業に有用な各大学等が有する新技術分野一覧表 数字：新技術調査票の件数

技術分野	S2新技術マップ										計(件数)							
	関西大学	大阪大学	京都大学	大阪府立大学	同志社大学	神戸大学	岡山大学	近畿大学	大阪工業大学	大阪産業大学		大阪市立大学	大阪電気通信大学	立命館大学	龍谷大学	奈良先端科学技術	甲南大学	京都産業大学
基礎技術																		
11 レーザー																		
12 非接触伝送・無線																		
13 物理	29	7																
14 化学	17	1	5	4	1	2	14											
20 電学	1																	
21 ロボット	1	1	1	1	1	1												
22 自動車・航空機																		
23 部品	28	11	3	11	1	16	14	5										
24 ナノテク	1	1	4	2	3	1	7											
25 フィルター	1																	
26 センサー	5	3	2	1	1	1	1	3										
27 材料開発																		
28 検査測定機器	1																	
29 食品工	3	10	1															
30 デバイス	3	2	8															
31 バイオ	3																	
32 肥料																		
33 食育																		
34 食品管理																		
35 ペット																		
36 木・竹																		
41 太陽光発電																		
42 省エネルギー	1	1	3	3														
43 原子力発電																		
44 再生エネルギー	3																	
45 採掘台	1																	
46 バイオディーゼル																		
51 地球温暖化																		
52 CO2削減																		
53 廃棄物処理	4	4	1	1	2	1	2											
54 大気汚染	1																	
55 水質汚染	11	1																
56 浄化	4																	
57 省エネルギー																		
58 リサイクル																		
59 省資源																		
61 ソフトの開発	8	2	3	6	6	5												
62 遠隔監視	3	1	5	4	1													
63 インターネット																		
64 ネットワーク																		
65 赤外線																		
66 情報・通信機器	2																	
71 診断・医療	4	15	3	4														
72 再生医療	2																	
73 がん予防・治療																		
74 高齢化医療	2																	
75 予防	1	1	1															
76 医薬品	6	1																
77 補助器具																		
78 遠隔手術機	6	3																
81 食糧問題	4																	
82 農業との連携																		
83 漁業との連携	1	5																
その他	3	1																

RRTC スキーム2 関西での 新技術調査票

区分	種別・加工	分類	用途	大学	近畿大学
テーマ	<p>バイオ系およびナノ材料（従来の材料と異なるナノレベルの構造の構築）が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。</p> <p>研究がなされる一般的なナノレベルは、ナノメートル程度の範囲のものを指す。本発明はナノレベルの構造の構築が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。本発明はナノレベルの構造の構築が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。本発明はナノレベルの構造の構築が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。</p>				
概要	<p>発明名(シートは色紙に貼る)</p> <p>組合せ(図解する場合は図解で説明することによりシートは新規なアイデアとなる)</p>  <p>従来の材料と異なるナノレベルの構造の構築が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。本発明はナノレベルの構造の構築が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。本発明はナノレベルの構造の構築が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。本発明はナノレベルの構造の構築が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。</p>				
事業化への課題	<p>適用分野 下記用途への適用と高度化の課題と思われる。</p> <p>① D1Y用の材料(樹脂、糊など) ② 印刷用の材料</p> <p>③ 建築材料(樹脂、糊など) ④ 印刷用の材料</p> <p>⑤ 宇宙空間用材料(樹脂、糊など) ⑥ 印刷用の材料</p>				
実施校	<p>① 近畿大学 ② 同志社大学 ③ 神戸大学 ④ 岡山大学 ⑤ 近畿大学 ⑥ 大阪工業大学</p>				
求められる組織	<p>近畿大学</p>				
中小企業への評価とマッチング	<p>従来の材料と異なるナノレベルの構造の構築が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。本発明はナノレベルの構造の構築が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。本発明はナノレベルの構造の構築が中心となる技術で高度化を図ることを目指す。</p>				
備考	<p>【出願番号】特願2019-245049</p> <p>特許公開日：2021年7月29日</p> <p>【技術情報】RRTC</p>				

スキーム2で、核となる拠点技術の構築で、今年度の委託事業で、時間的には制約があり、新技術調査で、詳細まで調査が行き届かないものもあった。

近畿の主要大学を中心に中小企業に有用な新技術を調査し、全体の技術マップが出来、全体の動きが見えるように出来た。

今後、さらに、新技術の調査方法で、大学への訪問、学会での技術報告書での文献なども考慮し、調査の範囲を広げ、中小企業にさらに有用な技術の先取りが出来るように、新技術の発掘を進めたい。

(平井佳紀 記)

## 【活動報告】

### S プロ・スキーム3 支援企業ニーズデータベースの構築

「スキーム3」の狙いは、大都会の新現役が地方都市の中小企業を元気にするためには、まず中小企業がどんな悩みや課題を持っているのか知る必要がある。そこで先ず地方の商工会議所に目をつけ、中小企業の課題を聞き出そうとしたが、把握できていなかった。そこで我々は、地方の商工会議所と共催でセミナーを開催し、講演会を開いて出席した中小企業の皆さんにアンケートを書いてもらえれば、そこに中小企業の悩みや課題が浮き彫りになるのではないかと考えた。

先ず開催する地方を 四国（高松か徳島）  
和歌山 大阪府下（八尾か枚方）に決め、各商工会議所に当組合の思いをお話し、是非ともセミナーを開催し、地方の中小企業を元気にしてあげたいと交渉した。

お話した時期が年末年始という時節柄、商工会議所としても大変忙しい、そこに飛び込みでセミナーをやりたいといっても日程的に逼迫している。ましてや不景気な今、中小企業にとってそんな時間など無いなどの理由で、厳しい交渉を余儀なくさせられた。

- A) 徳島の『新現役活用フォーラム』開催に当たっては、四国経産局や新現役チャレンジ支援ブロック事務局四国の支援を得て、徳島商工会議所の新現役登録者研修会に便乗して実施させていただいた。



写真1：徳島の「新現役活用フォーラム」

35名の参加者を得たが、中小企業の悩み、課題は得られなかった。

- B) 八尾市の『航空宇宙産業セミナー』は、当組合の1人が三菱重工業㈱(略称:MHI)の元社員で、大阪でセミナーを開きたいとお話したら、MHIの仲間で俺が講演してやろうと4人も協力者が現れ、八尾市中小企業サポートセンターの協力で開催にこぎつけた。116名の参加者を得て、68件のアンケート回収を得て、品質・技術開発・マーケティングなどに不安があり、協力企業部会に入会したいとの意向を得た。



写真2：八尾の「航空宇宙産業セミナー」の盛況ぶり

- C) 和歌山の『環境にやさしい自動車用蓄電池のものづくり』セミナーは、わかやま産業振興財団のお世話で、和歌山県中小企業家同友会の2月例会の開催に合わせて実施した。24名の参加者を得たが、中小企業の悩み・課題は十分には把握できなかった。

時あたかも、世界同時不況のまっただ中、販売が激減している中でのセミナー開催であったが、関西地区航空産業参入という雰囲気のあるセミナーは、活気があって、本音が聞けたように思われる。今後このセミナーを大事にして中小企業を支援していきたい。

(粟野順二郎 記)

## 【活動報告】

### Sプロ・スキーム4 支援技術管理スキームの構築、マニュアル化

ここでは、支援技術の管理、データベース化、マニュアル化ということで活動を行った。管理とはマンションの管理会社のように、本来の活動が円滑に進むように条件を維持整備することと定義した。本スキーム4では、スキーム1, 2, 3と連携して、支援のスキルをデータベース化し、マッチングを試みた。

スキーム1では、支援する企業OBのスキルをデータベース化、マニュアル化を試みた。また支援する企業OBのスキルを資格化し、制度化を試みた。

スキーム2では、近畿地区の大学の新技術を調査整理し、データベース化を試みた。

スキーム3では、徳島、八尾、和歌山でセミナーを開催し、中小企業のニーズデータの調査を行った。

スキーム4では、これらのデータを総合し、マッチングを行った。具体的には、八尾のセミナーで航空機産業に参入を希望する企業68社のニーズを把握できたので、連絡協議会などの組織化を図って支援するスキームを提案した。(図1)

今年度は時間的制約があり、十分な活動ができなかったが、今年度の成果をベースに、次年度は、さらに企業OBのスキルのデータベース化、資格化、大学の

新技術のデータベース化、中小企業のニーズのデータベース化、組織化を推進して充実化を図る計画である。

関係各位のご理解、ご指導をお願いいたします。

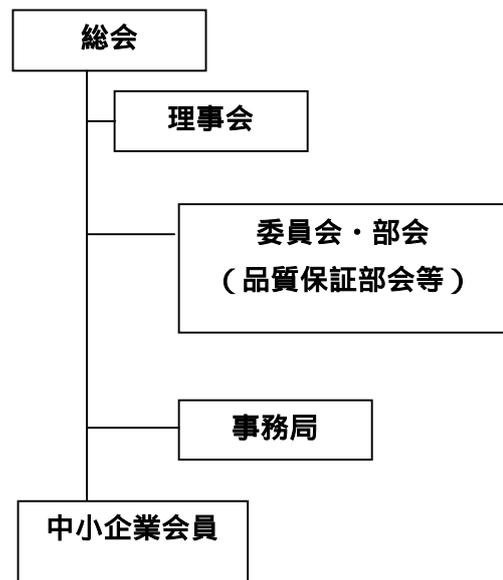


図1 航空機産業参入企業連絡協議会(案)



図2 技術検討会

(三原種豊 記)

## 【活動報告】

平成20年度 新現役チャレンジ支援事業（モデル事業等）のまとめ  
当組合は、中小機構から『新現役チャレンジ支援事業（モデル事業等）』（通称：「Sプロ」  
と呼称）の委託を受け、約7ヶ月の長きにわたって活動し、ほぼ目標を達成することが出  
来ました。その成果をまとめ、今後の課題を整理したので報告します。

### （1）成果のまとめ

スキーム1では、当組合メンバー26名の  
専門技術は整理できた。分野として原子力、  
金属、材料、機械、電気、化学等は幅広いが  
医療、介護、エネルギーなどは人材補充を含  
めて底上げが必要である。

スキーム2では、近畿地区各大学の中小企  
業で有用な新技術約2600件をピックアップ  
し約700件の有用技術マップを作成した。

これで各大学の長がクリアになった。

スキーム3では、3地域でセミナーを開催  
した結果、航空セミナーでは多数の来場者  
があり、アンケートも多数回収できたが、そ  
他では十分な来場者数とアンケート回収が  
出来なかった。公的機関（工業技術センター、  
大学の知財権本部など）に行ってみると、か  
なりニーズを把握されているところもあつて、  
重点的に接触していく必要がある。

スキーム4では、従来曖昧であった企業  
OBの支援内容を整理、マニュアル化した。

中小企業側からみて信頼性のある支援ビジ  
ネスのスキーム（制度）案を構築することが  
できた。

### （2）今後の取り組み

徳島県の工業技術センターでは中小企業  
から多くの技術相談が寄せられている。徳島  
大学知財権本部では、「TPAS-Net」と  
いうITシステムが導入され、ニーズ、シー  
ズが入手できるようになっている。これらの  
事から、他の都道府県の公設研究機関を調べ  
て、もっと質の高い情報を収集して、我々に  
合った最適な方法を取り入れていきたい。

これから知りえた中小企業のニーズを的  
確に掴み、これに合ったシーズの発掘が急務  
である。そのためには先に知り得た近畿圏の  
大学の新技術マップと特定の技術の絞り込み

から、ニーズに合ったシーズを効率的に収集  
できるものと確信している。

八尾の航空産業セミナーで知り得た中小  
企業の熱い想いを、近畿経済産業局が推進す  
る「関西国際航空機市場参入等支援事業」プ  
ロジェクトに全面的に協力して、「関西地区の  
中小企業を元気にする支援」に結びつけて行  
きたい。

### （3）今後の課題

今後の重点分野が、医療、介護、環境、エ  
ネルギーという事から考えると、スキーム1、  
2、3ともこれらに合った取り組みが必要と  
なる。これらを整理すると、次の通りである。

- 1．重点分野に専門性の高い人材の確保
- 2．現有人材のスキルアップ
- 3．ニーズに絞り込んだシーズの調査、探索
- 4．中小企業ニーズの的確な、効率的な手法  
の探索（例えば、「TPAS-Net」）
- 5．「関西国際航空機市場参入等支援事業」へ  
の支援

### （4）まとめ

実施期間は7か月と短期間で厳しいもので  
あったが、組合員が精力的に活動し、予想以  
上の成果を上げることができた。

スキーム1で企業OBのスキルのマニュアル  
化、スキーム2で中小企業に有用な新技術の  
調査、スキーム3では徳島、和歌山、八尾で  
セミナーを開き、中小企業の支援の道筋をつ  
けることができた。

特に八尾の航空宇宙セミナーでは、航空宇宙  
産業に進出したい中小企業の意気込みを感じ、  
情報連絡組織化を図ることができた。

これらの成果を有力な基盤として、今後の当  
組合の支援活動を推進していくこととしたい。

（栗野順二郎 記）

## 【活動報告】

### 『わかやま ものづくり支援アドバイザー事業』 (5S活動を通じて、M社の経営体質改善の成果発表)

毎年、財団法人わかやま産業振興財団によるものづくり支援アドバイザー事業が行われています。昨年(2008年)8月から、この事業に近畿産業技術クラスター協同組合が選任され、支援し、取り組んできたM社の経営体質改善の支援の成果発表が、他の3社と共に今年(2009年)3月17日午後和歌山ビッグ愛で行われました。

はじめに

今回は、木材の加工会社のM社が、5S活動を通じての経営体質強化に取り組みを開始した事を報告しましたが、今回はその成果報告です。

ものづくり支援アドバイザー支援事業とは、和歌山県内の中小企業において、ものづくりを通じて、経営体質の強化を図る事を目的としています。

M社とは

M社は、前回報告の通り、木材を通じて、社会に貢献する事を使命としている木材の加工販売会社です。

檜や杉などの銘木化粧貼りの集成材の製造販売をはじめ、ログハウス・輸入住宅部材などの販売施工を行っています。

特徴的なのは、通常の部屋を、たちまち和室に、変貌出来る置き和室と言うユニットを販売している事です。将来有望は製品です。

資本金：2,000万円

従業員数：50名



(置き和室)

支援内容

昨年(2008年)9月から支援活動を開始し、今年(2009年)の2月末までの約半年間の活動支援とその成果の報告です。



(和歌山ビッグ愛でのY製造課長発表)

取り組みのテーマは、在庫の削減、受注タイミングの改善による作業の効率化、無駄な生産・クレームの排除、ルールの徹底です。

それ以外に社長より、管理者のリーダーシップの養成依頼があり、成果は下記の通りです。

在庫では、全体の6%(約700万円)の削減を実現。保管棚、25棚の確保。

受注では、当日出荷が東京向けは、(40件/月 21件/月)で半減。

大阪向けは(53件/月 48件/月)。ルールでは、手短な事で、実施して自信をつける事に力点を置き、帽子と名札を付ける。これが徹底されるようになった。

短期間ではあったが、社員の皆さん全員協力の下に良く取組み、成果が上ったと思われまます。

やれば出来る。Y製造課長のリーダーシップの試金石にもなった。Y製造課長は、各班長をまとめると共に初めてのパワーポイントを使って資料もうまく作成され、発表も良かった。

課題は多く残っており、継続して、今度とも改善に取り組まれ、益々発展される事を望んでやみません。

(富永安治、佐藤伸吾記)

【事業報告】

わかやま 「K社」サポート活動報告

昨年度、11月に「財団法人わかやま産業振興財団」より、成長戦略企業支援計画の認定企業である「株式会社 K社」のサポート依頼を受け、平成20年度成長企業育成支援事業に係るサポーターとして活動を開始したので、これまでの活動経過を報告します。

1. 株式会社 K社 の概要

事業概要：精密電子部品における金型から量産までの一気通貫事業  
 資本金：約3億円  
 従業員数：約200名



所在地：和歌山県伊都郡

2. 課題内容

更なる5S、ムダの排除による経営改革（やらざるを得ない仕組みの構築）

3. 社長が期待する達成したい姿

利益体質の強化を目指して“やらざるを得ないしくみの構築”により非製造部門も含めた業務の「見える化」と「標準化」を行い、全ての業務を業務フロー（ルール）通りに実行する。

4. サポート推進計画

社長の意を受けて、計画の内容推進に当たってもPDCAが有効に機能する“やらざるを得ないしくみ”を下記「トップダウンとボトムアップの融合」のしくみ（「トップ診断」）を提案し、現在活動の準備中です。

トップ診断の仕組み図



全職場が全ての業務を棚卸し、優先順位を付けて順次計画に従って整備していく姿を作る。



この作業を全職場で進めていくためにフロー図の記号の標準化、主要業務をモデルにした難型フロー図の作成・提供を進めてきた。

昨年度は事務局レベルの準備会を7回実施済みです。

6. 活動のキックオフに向けて

活動の目的、推進の概要を明確にし、キックオフに向けてオリエンテーションを



社長の出席の下4月15日に実施しました。

これを契機にして、全部門が標準化計画を作成し、「キックオフ大会」を実施する手はずです。以降は「トップ診断」の仕組みの中で大きく動き出す予定です。このしくみの運用による成果創出が平成21年度のテーマです。

7. 21年度の計画

「財団法人わかやま産業振興財団」では、「K社」の希望を受けて、第2期目の活動認可に向けて準備中であります。

我々サポーターチームも予算の繋ぎ目で活動を緩めることなく進めています。

サポーター：宮本方人、村岡隆、中西政貴(記)

## 近畿産業技術クラスター協同組合

( テラテックコンサルタント )

〒564-0032

大阪府吹田市内本町 2 - 7 - 1 2

TEL : ( 06 ) 6317-2439

FAX : ( 06 ) 6317-0579

Eメール : [info@kstc.jp](mailto:info@kstc.jp)

URL : [www.kstc.jp](http://www.kstc.jp) ( 新ホームページ )

新ホームページが完成しました。ぜひご覧ください。

### アクセス

JR 吹田駅下車 南東の内本町コミュニティーセンターを南へ(徒歩 10分)

阪急吹田駅下車 メイン通路を南東へ、トヨタ自動車販売店を東北へ(徒歩 15分)





寺山南楊氏作品  
南北墨画会常任理事

近畿産業技術クラスター協同組合  
テラテックコンサルタント

発行日 : 平成21年4月30日  
発行者 : 寺山 浩三  
編集委員 : 粟野 順二郎 近藤 穆  
                  大久保 雅巳 宮本方人  
校正委員 : 平井 佳紀